



2022年
6月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095

<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者
司祭 瀬山 会治

印刷所
文明堂印刷所

静けき祈りの時はいと楽し

司祭 ミカエル 小南 晃

「しずけき祈りのときはいと楽し、悩みある世より、われを呼びいだし父なるみ神にすべての求めをたずさえいたりてつがさに告げしむ」

(聖歌五四八番)



信仰生活とは祈りの生活です。そしてそれは本来この聖歌にあるように楽しく喜びに満ちたものの筈です。

しかし私たちは本当に祈りを大切なものとしてしているでしょうか。

ともすれば神に祈らなければならぬような頼りなく細かい状況は避けたい、そのような思いに囚われていることはないでしょうか。

日ごとの食物を 今日も与えてください

右の言葉は主の祈りの一節

です。この「日ごとの食物を神に求めること」の教えの一つとして出エジプト記十六章の「マナの奇蹟」があります。荒野で食べ物がなく不平を述べ立てるイスラエルの民に、神は天からのパン、マナを降らせて養われました。その時、神は「毎日マナを降らせるから、毎日必要な分だけを集める」ことを指示しました。そしてある者は多く集め、ある者は少なく集めました。量って見るとそれぞれに必要な分だけ集めることになりました。するとある人々は「翌朝まで残しておいてはならない」というモーセの指示に従わず、マナを幾分か残しておきました。結果は虫がついて腐ってしまったと言うものです。

何故、神が「毎日マナを降らせる」と約束されているのに、マナを蓄えようとしたのでしょうか。それは、神は「毎日マナを降らせる」と約束されたが本当かどうか分らない。だからそれに備えたいという心理が働いたのでしょう。

そこには神に対する不信があり、自分の力を頼ろうとする思いがあるということです。

しかし荒野で食べ物を得る道が他に無い時に、もし一日二日蓄えを持ったところで焼け石に水であり、幾分滑稽な企てでさえあります。

祈りの生活に立ち帰る

「日ごとの食物」に限らず、私たちはともすれば神に祈り

求める生活を頼りなく、心細いことのように思い、自分の力で何とかしたいと思いがちなのではないのでしょうか。しかしそれは神に生かされているからこそ今日生きていることを忘れていかに他なりません。

殊にもし教会生活や信仰生活において、今までの自分の経験や知識に頼って進もうとし、いつしか祈りを忘れていく場合には、まさに本末転倒しているとしか言えないでしょう。

しかしそのような時、「苦しい時の神頼み」のように、一時慌て、焦ることがあるかも知れませんが、神は何らかの形で祈りの生活へ立ち帰るよう導いてくださるので

す。何故なら、神は私たちを愛しておられ、祈り求める者にさらに良いものを与えようと待っておられるからです。

(姫路顕栄教会 牧師)

神学塾通信講座

— 受講者からの感想 —

「神学塾受講で

思うこと」

通信講座の中に出てくる分からない言葉を、辞書で調べながら読み進めています。そこに出てくる言葉の意味が分からないこともあり、元々調べていた言葉を思い出しながら読み進めています。

私はこれまで、聖書の物語の真意までくみ取ることはできないまま礼拝に出ていました。そのため、礼拝で読まれる聖書の内容を理解するために、歴史を含めて勉強しないとイエス様はいつまでも遠い存在のままだと感じていました。神学塾はそんな私を呼んで下さったと思いました。通信講座を受けてみると、先

生方が細かく丁寧な解説をして下さっており、もともと学びたいと思うようになりまし

た。私自身は、耳で聞くよりも文字を追う方が理解し易いとも感じています。例えば4つの福音書の比較を表で示していたりなど、受講者への想いが伝わりました。そのことによって、これまでよりも

聖書が理解できるようになったと感じました。私は学び続けることによつて、現実離れしているように思える聖書が、今の現実と重なっていかれば良いと考えています。そして、イエス様のことがもつと近い存在になれるのではないかと思いつつながら続けています。教会ってどん

な所と聞かれて「イエス様を中心として集まった集団」と答えられるようになるには、まだまだ勉強が必要そうです。ましてや聖書が伝えたい

こと等は、自分に問いかけることで精一杯です。だからこそ、先生方の深く広い知識に敬意をもって、学べる事に喜びに感謝しながら可能な限り学ばせて頂きたいと思ひます。

(広島復活教会信徒 栗栖直美)

2021年度の神学塾通信講座を受講者から感想を頂き、通信講座が皆様の信仰の養いの手助けとなつています事を感じ、神学塾運営委員一同大変嬉しく思っております。2022年度も7月から通信講座を開講いたします。今年度から西日本宣教協同区で行うことになり、今回は九州教

区からも講師をお迎えすることができました。皆様の受講をお待ちしております。受講の申込方法については、各教

区に配布されています案内をご覧ください。

(神学塾運営委員 杉野達也 司祭)

神戸教区神学塾 通信講座のお知らせ

開講期間 2022年7月～2023年6月

- 開講科目**
 - ・教会史『日本聖公会物語』
《講師》**中原 康貴** 司祭 (神戸教区) (奇数月)
 - ・信徒神学『信仰を生活する』
《講師》**小林 史明** 司祭 (九州教区) (奇数月)
 - ・組織神学『日本の宗教性と教会の役割』
《講師》**與賀田 光嗣** 司祭 (神戸教区) (偶数月)

受講料

- ・教材を郵送で受け取る場合 ¥3,000 (1科目)
- ・教材をメール(PDFファイル)で受け取る場合 ¥2,000 (1科目)

申込締切 2022年6月26日(日)

問い合わせ先 杉野達也司祭
(米子聖ニコラス教会 0859-29-8465)まで。

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

『ランバス会議開催』

2020年の夏に予定されていた第15回会議がコロナ禍のため、21年に延期され、すぐに22年に再延期されていきました。

それが今年になり、再登録を促すメールが届いていました。しかし、本当に開催されるの？という半信半疑な気持ちでした。そこへ正式な案内書とジャスティン・ウェルビー・カンタベリー大主教のお手紙が届きました。そのお手紙の中で、大主教は今回の会議の目的を「(ウクライナ紛争やコロナ禍、食糧問題など)重大な課題のある中、私たちはこの機会を利用し祈りを捧げるとともに、今後10年の間にアングリカン・コミュニティがいかにして希望

と福音を共有できるかについて話し合いができることを心から願います」と説明されています。

今回の会議は、7月26日(火)から8月8日(月)まで、英国南東部のカンタベリーにあるケント大学を会場に行われます。

会議のテーマは「神様の世界のための神様の教会(God's church for God's world)」です。

全世界の聖公会165ヶ国から700名以上の主教が集まります。

会議前のリトリート、開会礼拝と閉会礼拝は、カンタベリー大聖堂で行われます。

毎日のプログラムは、礼拝の後、今回の会議のために大主教が選ばれた「ペトロの手紙」の学びからスタートです。この手紙は、教会の関心を外の世界、宣教に向けさせ、教会をこの世界を変革させる働きに招く、と説明されています。(以下、次号)

(神戸教区主教)



今回は、1995年の宣教協議会について振り返ります。

そもそも、宣教協議会とは何でしょうか。この宣教協議会以前にも、日本聖公会では宣教に関わるさまざまな協議会が開催されましたが、それらを概観してみると、次のように言うことができます。すなわち、「その時代時代において、協議して方向性を定める必要がある宣教の諸課題について、日本聖公会全体としてなされる協議会」と。日本聖公会全体として、というところに大きな力点があります。

1995年の宣教協議会は、8月28日から31日まで、清里清泉寮にて開催されました。主題は「日本聖公会の宣教―歴史への責任と21世紀への展望」。戦後50年の節目にあたり、「歴史、世界、社会、民衆の中で働いておられるキリストに生きる教会」が目指されました。参加者は184名でした。塚田理司祭による主題講演

「日本の歴史と宣教理解」や、ジョン・ボビー司祭による特別講演「21世紀への教会の展望―あらゆる場を変革するために―」が行われ、井田泉司祭による聖書研究『正義を行う』ことへの召し』がありました。また、祈りの集いの中の韓国、フィリピンからの証言や、女性、障がい者、環境問題に関わる発題がありました。



清里清泉寮

これらの講演や証言、発題を受け、参加者による協議を経て、協議会最終日に「日本

聖公会'95宣教協議会宣言」が採択されました。そこでは、「日本聖公会が戦争に加担した責任を、痛みをもって自らのものとし、敗戦後、すみやかにこの責任を明らかに表明できなかつた戦後責任を確認し、その罪責を神の前に告白し、被害を与えた隣人の前に謝罪し「懺悔」すること、また「日本聖公会は、差別、抑圧を生み出し支えている社会構造自体を変革するための地の塩、世の光とならなければ」ならないことが表明されました。また、同じく「日本聖公会'95宣教協議会共同さんげ」が採択されました。

採択されたこれらの「宣言」、「共同さんげ」に導かれるかたちで、翌年の1996年第49(定期)総会において、「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」が決議されました。この決議により、韓国・フィリピンをはじめとしたアジアの諸教会との交わりが深まることとなりました。またこの宣言は、1998年ランバス会議で紹介され、多くの国の人々に感銘を与えたようです。

宣教協議会実行委員
横浜教区司祭 北澤 洋

鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

4月17日(日)

シャローム 森 脇 愛 華
岡山聖オーガスチン教会

ご 逝 去

1月28日(金)

ハン ナ 茶 谷 カジ子
徳島聖テモテ教会

3月26日(土)

グレース 吉 田 満
姫路顕栄教会

4月7日(木)

マリア 吉 永 艶 子
富岡キリスト教会

7月10日 海の主日

全世界のミッション・トゥ・シーフェアラーズの働きおよび港の仕事に従事する人とその家族のため、苦小牧、横浜、神戸ミッション・トゥ・シーフェアラーズのために祈り、信施を献げましょう

祝 聖 婚

司祭 遠藤洋介は4月21日に八戸聖ルカ教会に於いて聖婚いたしました。司式を吉田雅人主教様、説教を小林尚明主教様にお願いいただき、教会信徒の皆さまが見守ってくださいる中で素敵な聖婚式をしていただきました。お相手の方は亜佑子(あゆこ)さんと言います。年下の女性ですが私よりもずっとしっかりしている方です。色々なことがあると思いますが、夫婦二人で乗り越えていければと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。

信徒対象宣教アンケートのお願い

教区宣教委員会では教区内各教会の信徒・関係者の皆様に宣教アンケートを今年7月に実施する予定にしています。より良い教会・教区となるために貴重なご意見を多くの皆様からお聞きしたいと願っておりますので、ご協力の程、よろしく願いいたします。(宣教委員会)

7月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2022年7月7日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 永野 拓也

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

* 7月の記念逝去教役者

- 1日 司 祭 ロバート コールマン
- 3日 伝道師 小川 淳一
- 5日 司 祭 レジナルド セイバリー
- 6日 宣教師 フレデリック ウォーカー
- 11日 伝道師 マリア 横田 キヨ
- 12日 修 女 ユニケ 岡上 千代
- 14日 司 祭 パウロ 中村 弘
- 15日 宣教師 オクタビア ジュリアス
- 15日 司 祭 ウイリアム リチャーズ
- 19日 司 祭 マッテヤ 末永 恵
- 20日 司 祭 広瀬 健介
- 21日 宣教師 ドロシー ケ 一 ス
- 22日 伝道師 グレース 小 西 道
- 27日 宣教師 ルイーズ ガル ゲ ー
- 28日 主 教 マルコ 小池 俊男



ランベス募金再開のお知らせとお願い

2020年に開催予定であったランベス会議はコロナウイルス感染のため延期となり、同募金も年末に中止いたしました。しかし、今年、ランベス会議が開催されることとなり、ランベス募金を再開いたします。目標金額180万円(2022年4月15日現在 578,500円)です。

ランベス会議は十年に一度、全世界のアングリカン・コンミュニオンに連なる聖公会の主教たちが、カンタベリー大主教の招きを受けて開催される会議です。この会議ではその時代の問題となっている事柄を中心にお互いに意見を交換し、理解を深めて学び合うことが目的とされています。このランベス会議に教区代表として小林主教に出席していただきます。

ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。